

2026年度 大学院心理学研究科入学試験  
博士前期課程（修士課程） 一般選抜  
「心理学（共通）」 試験問題

問題Ⅰ 正の弱化を解説したうえで、正の弱化としての体罰の問題点について、体罰がもたらす副次的問題や望ましくない行動を抑制する代替案に触れながら、行動分析学の視点から説明しなさい。(25点)

【出題意図】 実験・応用心理学専攻および臨床・発達心理学専攻の大学院生にとって、学習心理学や行動分析学の基礎知識は必須である。また、公認心理師を目指す者にとっても、公認心理師法第一章第二条に掲げられた業務（一～四）を遂行するために、同様の知識が必ず求められる。本問題は、その基礎知識の習熟度を確認することを目的としている。具体的には、正の弱化という基本原理を理解しているかを確認することを念頭に、教育・家庭・福祉・医療などの実際の支援場面で生じやすい「体罰」という具体例に即して、その限界や副作用を論じさせることを狙いとしている。さらに、単に体罰の問題点を列挙するだけでなく、代替的介入法を提示できるかを問うことで、専門知識を臨床・発達・その他の各領域に応用する力を測定することを意図した。

【参考】 吉野 俊彦 (2018). 罰の効果とその問題点——罰なき社会をめざす行動分析学—— 心理学ワールド, vol. 80, 5-8.

2026 年度 大学院心理学研究科入学試験  
博士前期課程（修士課程） 一般選抜  
「心理学（共通）」 試験問題

問題 I 正の弱化を解説したうえで、正の弱化としての体罰の問題点について、体罰がもたらす副次的問題や望ましくない行動を抑制する代替案に触れながら、行動分析学の視点から説明しなさい。(25 点)

【模範解答】 行動分析学でいう弱化とは、行動直後の環境変化によって将来的なその行動の生起頻度が低下する操作である。刺激を加えて頻度を下げるものを正の弱化、刺激を除去して下げるものを負の弱化という。正の弱化が確実に機能するためには、嫌子への逃避が不可能、十分な強度、反応直後・毎回・遅延なく呈示、呈示時間が短い等、いくつかの厳格な条件が必要である。

体罰は苦痛刺激を用いた典型的な正の弱化である、条件が完全に満たされれば一時的な行動抑制は可能である。しかし現実の教育・家庭場面では条件が揃いにくく、抑制効果は場面限定かつ短期的にとどまる。さらに体罰にはいくつかの副次的問題が伴う。第一に、用いる側・受ける側とも不快情動が生じ、恐怖や混乱を誘発する。第二に、逃避・回避反応や攻撃行動が生じ、対人関係を損なう。第三に、体罰を用いる行動自体が「子どもが静かになる」という負の強化で維持されやすく、濫用の危険が高い。第四に、抑制効果は一時的で、別の望ましくない行動へ置き換わることがある。第五に、被罰者は「何をすればよいか」を学習できず、行動改善が長期化する。

これらの副作用を避けつつ望ましくない行動を抑制するには、まず機能的アセスメントにより、その行動を維持する強化源を特定し、環境を調整することが重要である。その上で、タイムアウト法など嫌子依存度の低い手続きを用いることや、ポジティブ行動支援 (PBS) を通じてより望ましい行動を形成しながら望ましくない行動を抑制することなどの介入が推奨される。

- 正の弱化の説明 10 点
- 体罰がもたらす副次的問題の説明 10 点
- 他の方法の説明 5 点

※ 模範解答は下記の参考文献を読みながら作成したものであり、ここまでの水準は求めています。3 つの観点について要点を述べる事が出来ていれば良いと考えます。

【参考】 吉野 俊彦 (2018). 罰の効果とその問題点——罰なき社会をめざす行動分析学—— 心理学ワールド, vol. 80, 5-8.

出題意図（問題 II）

心理学の一般的な用語についての知識を確認するとともに、基本的な研究計画やデータ収集の手続き、分析方法を想定できるかどうかを問うた。併せて、心理学研究において不可欠な倫理コードについての知識も確かめた。

## 心理学共通

### 問題 II

#### 解答例

(1)

実行機能 (executive functions) とは、決められた目標に向かって計画的に行動するのに必要な認知機能のことをいう。以下の3つの構成要素に分けることが多い。

○抑制機能 (抑制制御)

衝動的、不適切な行動を抑える力。つい感情的に反応したくなる状況でも冷静に行動を選択することや、「待つ」「我慢する」などの制御を指す。

○シフティング (注意の切り替え)

状況の変化に応じて思考や行動を柔軟に切り替える力。ある課題を途中で中断して別の課題に注意をシフトしたり、それまでとは異なる視点から物事を捉え直すときに必要な能力である。

○ワーキングメモリ

情報を一時的に保持しつつ、その情報を用いて何らかの反応・操作を行う力。口頭で伝えられた複数のステップの作業を順次実行するとき、暗算をするときなどに使われる。学習や問題解決の基盤をなす重要な機能である。

#### 採点

3つの構成要素の名称：3点

それら構成要素の適切な説明：5点

(2)

#### 解答例

研究での研究計画を一例にあげる。

小学校1年生の生徒と保護者を対象に、研究を実施する。サンプルサイズは、効果量、有意水準、検出力などを元に算出する。

変数と測定方法

保護者に対し、子どもが幼稚園や保育所にいたころ (例えば、4、5歳頃) に読み聞かせをどの程度の頻度で行っていたか、子どもが自身で絵本を読むことがどのくらいあったかなどを選択肢式の設問で尋ねる (週1回、週2-3回など)。また、その年齢のころ、家庭には絵本がどのくらいあったか、また図書館で本を借りることがどのくらいあったか、なども尋ねる。以上の設問への回答から、幼児期に子どもがどの程度絵本に触れ、読書の習慣があったかを調べる。

一方、小1の子どもに対しては、抑制機能、シフティング、ワーキングメモリの力を測定するための課題 (ストループ課題、数唱、カード分類課題など) を実施す

る。

幼児期の読書習慣や読書への接触の程度を独立変数，実行機能の課題の成績を従属変数として，その関連を統計的に検討する。なお，子どもの性別や保護者の学歴，世帯収入などを統制変数とすることが望ましいため，これらの変数についてもフェイスシート項目で尋ねる。

#### 採点

具体的な研究デザイン：2点

研究対象の適切な選定：3点

想定される測定項目：3点

統計手法：2点

(3)

#### 解答例

調査を実施するにあたって，保護者に対して，研究の目的・方法・参加の任意性・個人情報の取扱い・中途辞退の権利などを記した文書を配布し，できれば口頭で説明を実施したのち，文書によるインフォームド・コンセントを取得する。子ども本人に対しても，年齢に応じた表現で研究内容を説明することが望まれるため，インフォームド・アセント（本人の同意）を得る。

収集したデータは，すべて匿名化管理し，氏名や学校名などの情報は切り離して保管するなどする。データの保管・管理は鍵付き保管庫やパスワード付きPCなどを用い，他者がアクセスできないようにする。成果発表時には，第三者が個人を特定できないよう配慮する。

また，実行機能の課題を行う時には，子どもがストレスや不快感を持たないように配慮する。途中で休憩時間を設ける，集中力が続かない場合は，無理に課題を続けたりしない。子どもが辞めたいと感じていることが予測できたときは，直ちに中断する。

成果について保護者が知りたいと希望した場合は，概要をわかりやすくまとめて提供する。

#### 採点

本人の同意を得ること（インフォームド・コンセント）：2点

集めたデータの管理：2点

実験実施時の配慮：2点

研究成果のフィードバック：1点

博士前期課程（修士課程） 一般選抜 「心理学（領域）」

問題Ⅱ

1.ヒトの網膜の構造上の特性とそれに対応した視覚の特性について具体例を挙げて説明しなさい。

【回答例】

中心窩には明所視を担う錐体細胞が密集しており、明所では中心視野で周辺視野よりも高解像度で精細な情報をとらえることができる。これに対し、暗所視を担う桿体細胞は中心窩には存在せず、その周辺部で最も密度が高い。このため、暗い環境では固視点からやや外れた位置で最も感度が高くなる。また、視神経乳頭には光受容器が存在しないためこの箇所は盲点となる。片眼観察ではこの網膜部位に投影された対象を認識できないことで盲点を確認できる。一方、両眼視では左右眼の盲点が互いに補われ視野の欠損は自覚されない。

問題Ⅲ

2.半側空間無視について簡潔に説明した上で、半側空間無視の症状の有無の判別に利用できる課題を1つ挙げなさい。その課題において、無視患者と健常成人でどのような反応の差が生じるかについても述べなさい。

【回答例】

半側空間無視とは、主に右頭頂葉の損傷によって生じ、視野や視力に異常がないにもかかわらず左側空間への注意が著しく低下し、認識が困難になる症状である。判別に利用できる課題の一つに線分二等分課題がある。これは、紙面上に書かれた水平線の中央に印をつけるよう求める課題である。健常者では線分の物理的中心付近に印をつける反応が得られる。一方で、左半側空間無視患者では、物理的な中心よりも大幅に右よりの点に印をつける反応が生じることから、反応の差により症状の有無を判定できる。

課題としては他にも例えば以下の課題などが説明されていればOK。

・線分抹消課題（抹消試験）：検査紙上に散在する短い線分全てに印をつける課題。健常者では紙面全体にまんべんなく印のチェックがなされるが、半側空間無視患者では紙面左側にある線分が見落とされチェックがなされない。

・模写課題：見本となる画像を模写するよう求める課題。健常者では見本全体を写し取った描画が行われるが、半側空間無視患者では見本図版の左側の要素が欠落した描画がなされる。

問題Ⅲの1・2の設問意図：

神経科学・心理学における基礎知識を確認するとともに、構造と機能を関連づけて理解できる力、具体例を挙げて論理的に説明する力を評価することを目的としている。

問 労働者の働くモチベーションを高めるために必要な要素について、自己決定理論をもとに説明しなさい。

自己決定理論では、内発的動機づけを高めるための3つの要素について言及されている。1つは自律性欲求であり、これは仕事の内容や仕事量などを自分で決定できているかどうかを指す。2つ目は有能感であり、自身が持つ仕事のスキルが優れていると認識できているかどうかを指す。3つ目は関係性欲求であり、これは同僚や上司から自身が必要とされているか、組織内の他者と良好な関係性を築けているかどうかを指す。

問 人の情報処理に関する理論である精緻化見込みモデルを説明しなさい。その際、人々の購買行動と結びつけて説明しなさい。

精緻化見込みモデルとは、人の情報処理には中心ルートと周辺ルートの2つのパターンがあることを説明したモデルである。中心ルートとは、評価対象の本質的な要素を重視して選択や判断を行う処理を指す。一方、周辺ルートは評価対象を取り巻く環境などを重視して選択や判断を行う処理を指す。例えば、パソコンを購入する際、メモリやCPUといったパソコンの本質的な要素をもとに購入を決めるときは中心ルートが働いている。一方、CMに起用されているタレントや店員の人柄など、パソコンを取り巻く周辺要素をもとに購入を決めるときは周辺ルートが働いている。

#### <出題意図>

自己決定理論はヒューマンモチベーションの分野、精緻化見込みモデルは消費者行動や意思決定の分野における主流の理論である。そういった基本的な理論と日常を絡めて理解できるかどうか、社会への応用という観点から議論できるかどうかを測っている。

博士前期課程（修士課程） 一般選抜（前期日程）

【臨床・発達心理学専攻：臨床心理学領域】

1 次の用語について、その内容を簡潔に説明しなさい。4問全てに解答しなさい。

(20点)

(1) systematic desensitization

模範解答 不安を引き起こす刺激状況に対して、リラクゼーションのような不安と拮抗する反応を提示し、不安反応を弱めていく技法。

(2) Vineland-II

模範解答 Vineland は適応行動尺度であり、年齢や社会的期待に応じて、日常生活で自立し、社会的に適切に行動する能力。コミュニケーション、自己管理、対人関係、日常生活スキルなどが測定できる。

(3) basic trust

模範解答 乳児期に養育者との安定した関わりを通じて形成される、「世界は安全で、自分は愛される存在である」という根本的な信頼の感覚

(4) SOGIE

模範解答 Sexual Orientation and Gender Identity の略。自分が自分の性をどう規定するか幅広い選択肢と組み合わせからなり、LGBT だけではなくあらゆる人を包括する概念である。

【出題の意図】

用語の理解度は受験生の基礎的な学習到達度を反映している。本学の専門性に基づき、基本的な臨床心理学の用語、また現代的な心理学の用語の理解度を把握することが出題の意図である。

2 臨床心理学における数量的研究と事例研究のそれぞれの役割と関連性について説明しなさい。

模範解答 臨床心理学において、数量的研究と事例研究はそれぞれ異なる視点と方法論を持ちながらも、相補的かつ循環的に機能する重要な研究手法である。

事例研究は、臨床実践そのものに根ざした研究であり、個々のクライアントとの関わりの中で生じる心理査定や面接の過程を丹念に記述・考察することによって、臨床的な理解を深めることを目的とする。こうした個別性の高いアプローチは、普遍的な理論の構築へとつながる可能性を持ち、また新たな仮説を生成する出発点ともなる。つまり、事例研究は臨床現場における「問い」を生み出す創造的な営みであり、理論の土壌を耕す役割を果たしている。

一方、数量的研究は、統計的手法を用いて仮説の検証を行い、再現性や一般化可能性を追求することで、臨床理論の妥当性を裏付ける役割を担う。複数の事例から導かれた仮説を広範なサンプルに適用し、その有効性を検証することで、臨床心理学の知見をより体系的に整えることが可能となる。

このように、事例研究によって生まれた臨床的な問いや仮説が数量的研究によって検証され、またその結果が臨床現場に還元されて新たな事例研究へとつながるという循環的な関係が、臨床心理学の発展を支えている。両者は対立するものではなく、むしろ互いを補完し合うことで、より深く、より広い人間理解を可能にするのである。

- 1) 相補的かつ循環的に機能する
- 2) 事例研究：個々のクライアントと関わりを記述・考察 個別性が高い
- 3) 事例研究：臨床現場における「問い」を生み出す役割 ( )
- 4) 数量的研究：統計的手法を用いて仮説の検証を行う
- 5) 数量的研究：臨床理論の妥当性を裏付ける役割

(15点)

【出題の意図】

受験生は、現在は卒業研究に携わり、大学院進学後は修士論文として研究に取り組むことになる。臨床心理学においては、「数量的研究」とどまらず、「事例研究」も重要な手法であり、またその相補的関係の理解が重要となる。こういった素養のある学生を選抜することが出題の意図である。

3 ある成人男性のロールシャッハ・テストの主要な結果は、 $R(25)$ 、 $M:\Sigma C=2:5$ 、 $FC:CF+C=1:4$ 、 $R+\%=50$ であった。まず、ロールシャッハ変数である  $R$ 、 $M:\Sigma C$ 、 $FC:CF+C$ 、 $R+\%$ が何を示すかを説明し、この被検者の特徴を述べなさい。

(15点)

模範解答

- ・  $R$  は反応数のことを示す
- ・  $M:\Sigma C$  は体験型で人間運動反応と色彩反応の比である。その人の対処スタイルを示し熟慮して計画的に対処する（内向型）か、感情的な刺激に応答しながら（周囲からのフィードバックを活用して）試行錯誤的に対処する（外拡型）などがわかる
- ・  $FC:CF+C$  は情緒的統制の指標である。成人の場合、 $FC>CF+C$ であることが望ましいとされる。
- ・  $R+\%$ は形態水準の数量的指標であり、現実検討力の指標となる。

この被検者は、反応数 25 と平均的な生産性・活動性・エネルギーがあり、体験型は外拡型であるものの、 $FC<CF+C$ を示しており感情の統制が十分とはいえ、時に自己中心的に感情が表現されやすい。 $R+\%$ はやや低い様子で現実検討力の甘さがみられ、場合によっては対人関係のトラブルなどが生じかねない。

2・3の解答を 解答用紙4に記入すること

【出題の意図】

心理アセスメントにおいて重要な位置にある心理検査に関する問題。ロールシャッハ・テストは投映法の中心的検査である。本学では、投映法の基礎知識を有していることが入学後の心理アセスメントの実習において必要であり、その理解度を問うことが目的である。

## 2026年度出題意図・解答例・採点基準

1 エリクソン (E. H. Erikson) のアイデンティティ論について、以下の語句すべてに触れつつ説明しなさい。

【心理社会的危機、生きる強さ、青年期、老年期、ナラティブ】(20点)

### 【出題の意図】

本問題では、発達心理学における主要な理論の一つである、エリクソンのアイデンティティ論について適切に理解しているかどうかを問うている。とりわけアイデンティティの確立だけではなく拡散という心理社会危機の中で生きる強さを見出すという視点を正しく理解しているかどうかに着目している。またアイデンティティが一生涯にわたる発達プロセスで検討すべきものであること、さらに近年重視されているナラティブの観点についても知識を有しているかを問うている。

### 【解答例】

エリクソンのアイデンティティ論は、特に青年期の心理社会的危機である、アイデンティティの確立と拡散という極の中で、忠誠という生きる強さを発達させることを重視している。またこの発達は青年期に限られるわけではなく、幼児期から老年期にわたるまで続いている一生涯の過程と考えられており、老年期では自らの死と向き合う中での実存的なアイデンティティの感覚を得ることが重要となる。さらに近年では自らの人生物語(ライフストーリー)を振り返り、意味づけるナラティブ・アイデンティティの重要性も指摘されている。

### 【採点基準】

各語句について適切に触れている(各4点)

日本語の不自然さ、誤字脱字は減点

2 研究法に関して、次の2つの問いに答えなさい。

(1) あなたが知っている質的研究法を一つ取り上げて、その特徴、利点、限界について説明しなさい。(15点)

(2) (1)で紹介した研究方法の限界を補う、あるいは利点を高めるために、他の研究法と組み合わせるとしたら、どのような方法が考えられますか。他の研究法の特徴、研究法を組み合わせることの効果、留意点について具体的に述べなさい。(15点)

### 【出題の意図】

(1) 発達心理学における重要な方法論の一つである質的研究法について、適切な知識を習得しているかを問うている。単に名前を知っているということではなく、その特徴、利点、および限界について説明を求めることで、具体的な研究計画を立案できる程度の理解度を有しているかを確認することが出題の意図である。

(2) 研究において重要なことは目的であり、方法はその手段である。発達の多様性を捉えようとする際、その目的を達成するためには複数の手法を組み合わせることも珍しくない。この問題では、混合研究法に限らず、質的研究同士の組み合わせも含めて、方法に関するメタ的な理解を有しているかどうかを問うている。

### 【解答例】

- (1) 質的分析法として日本ではよく知られているものに KJ 法がある。これは人類学者の川喜田二郎が考案した研究方法である。インタビューデータや自由記述データの分類方法として認識されがちであるが、現場取材と創造的総合の二つからなるフィールド科学において、ありのままのデータからボトムアップで認識する創造的総合という方法論が特徴である。具体的にはラベルづくり、グループ編成、図解化、叙述化の 4 つの段階をたどることで、混沌とした異質なデータから、新たなモデルや知見を発想・創造することができる利点がある。KJ 法を用いる前提として、丁寧なフィールドワークと分厚い記述を可能にする技能が必要であり、また累積的 KJ 法のように分析を繰り返してようやく新たな発想が生み出すための忍耐力とセンスが求められる。このため習得には相応の学習経験が必要であるが、それ以上に、研究目的や研究者自身との特性によって向き不向きもある。また質的研究全般に言えることだが、対象をより深く詳細に理解することを優先するために、集団全体の特徴を捉えることにはあまり適していないというも限界の一つである。
- (2) 研究方法の組み合わせ方として、異なる質的研究法の組み合わせと、質的研究法と量的研究方法（実験、質問紙調査など）との組み合わせが考えられる。前者では、例えば KJ 法による内容理解に加えて、ディスコース分析を通じて語りの背後にある社会構造や規範を明らかにし、その結果を統合する方法も考えられる。ディスコース分析は語られた内容ではなく、語りの背後にある構造や権力関係、イデオロギーなどに迫る研究方法である。この組み合わせはトランアンギュレーションなどとも呼ばれ、異なる視点から得られた知見を統合することで対象のより良い理解を得ることができる。後者については、混合研究方法と呼ばれるものが該当しやすい。質的・量的研究を組み合わせることで、どちらか片方だけのアプローチよりもより良い理解が得られることが期待される。なおどちらの組み合わせ方でも留意すべき点として、単に組み合わせただけでは不十分であり、それらが統合されることでいかにより良い理解につながったのかを明確にする必要がある。また具体的な方法にとどまらず、パラダイム（哲学的基盤）と方法論に対する深い理解と必要な技能の習得が必要である。
- \* 質的研究法および他の研究方法との組み合わせ方は無数にあるため、上記はあくまで一つの例である。

### 【採点基準】

- (1) 特徴、利点、限界で各 5 点
- (2) 他の研究方法の特徴、研究方法を組み合わせることの効果、留意点で各 5 点